

## 秋の近江八幡と安土城跡と伊吹山を散策しました

北辰会 26 期：仁張啓子

2016年10月13日～14日、北辰会24期～26期の有志で、秋の”近江八幡”と”安土城跡”と”伊吹山”を散策しました。

初日は、朝ドラ「あさが来た」の撮影にも使われた八幡堀を散策。八幡堀は安土桃山時代に豊臣秀次が八幡山城を築いた際に城下町と琵琶湖を連結するために造った防御と水運を兼備えた堀で、人、物、情報を集め城下を大いに活気づけたらしい。昭和になり不要になった堀はドブ川のように荒れていたようですが、今ではきれいに整備され、豪商たちの白壁土蔵や旧家が立ち並び保存されていました。

午後は、手漕ぎ和船の船上人となり、美味しいお弁当を頂きながらの水郷めぐりです。澄んだ青空の下、岸边にはコスモスが咲き、船頭さんのガイドを聴きながらゆったりとした時間を過ごしました。

安土城跡では、築城当時から残る壮大な石垣に触れ、石仏をも石段に使う信長の傲慢さに唾然とし、天下統一を思いながら眺めたであろう絶景を楽しみ、稀代の名将が建てた幻の名城跡を散策しました。下山途中の「摠見寺」では、境内のイチョウが色づき銀杏が沢山落ちていたので少し拾って帰りました。

2日目はいよいよ伊吹山登山です。3合目から登る予定でしたが3合目までのゴンドラが廃止となっており、ドライブウェイで9合目まで行くお手軽登山となりました。この日も快晴。周りには伊吹山(1377m)より高い山が無いいため山頂からの眺めはまさに「絶景」。何度も登ったという亀谷さんも「こんなに眺めが良いのは初めてや！」との声。東には名古屋や岐阜を望む濃尾平野、西には日本一の湖「琵琶湖」と比良山、南には鈴鹿山脈、北には白山や乗鞍岳や御嶽山などの日本アルプスの山並み。風も無く、目の前に“360度のパノラマ”が広がりました。帰りには伊吹山麓の「伊吹薬草の里」で薬草湯を楽しんで家路につきました。



安土城跡 大手門からの登城道



八幡堀の“白雲橋”前にて



時代劇撮影によく使われる八幡堀



伊吹山頂の“日本武尊”前にて



宿泊した“湖西荘”にて

### 伊吹山頂になぜ日本武尊の像があるの？

【古事記、日本書紀 伝説】日本武尊(やまとたける)が東国征伐から帰る途中、伊吹山に荒神がいることを聞き、その荒神を征伐するために伊吹山に登った。登り始めてしばらくすると大きな白いイノシシが現れた。尊は神の使いの化身だと無視して先に進んでいった。ところが実際は神の化身で、その怒りにふれ大氷雨を降らされて失神する。家来は、尊を背負って退散し、麓の清水が湧くところで尊に冷水を含ませると、たちまちに目が醒めた。(以来、この地は醒ヶ井と呼ばれ、清水は“居醒の清水”(米原市醒ヶ井)として平成の名水百選に選ばれている。)その後、尊は病身のまま伊勢の「能ぼ野」に行ったが、この病がもとで30才で亡くなった。

山頂の日本武尊像は、山麓上野区の里人と中京方面の有志が明治45(1912)年6月に石像を建て、供養を行ったと伝わっている。(日本武尊の伝説より)兼田記



伊吹山頂(1377m)標識



イブキトリカブト



山頂から彦根・琵琶湖・比叡山を望む